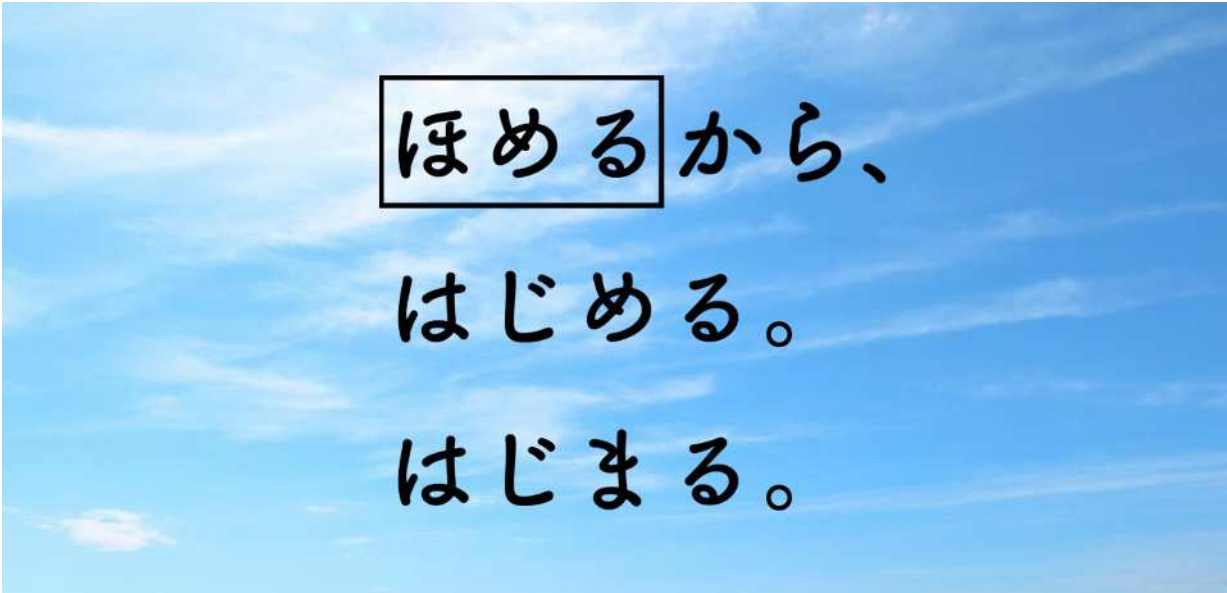


令和6年度 佐賀県教育施策実施計画



ほめるから、
はじめる。
はじまる。

令和6年5月
佐賀県教育委員会

はじめに

令和6年1月に策定された『佐賀県教育大綱 Vol.3』の冒頭には、「自分で自分のことを決められる子どもに育てたい」と掲げられています。そのために、子どもたちを取り巻く家庭や学校、地域が様々な生き生きとした環境をつくり、子どもの挑戦を応援していきたい。そして、高い志と佐賀への誇り、優しさを持った「骨太な子ども」を育てるため、「枠」に取り込まれることなく、トライ&エラーを重ねながら個性を伸ばしていく、そんな教育県佐賀「人づくり大県 さが」を創っていきましょう、とのメッセージが込められています。

県教育委員会でも、自分で考え、判断し、行動する、失敗を恐れずにチャレンジする、志と誇り、優しさを持った「骨太な子ども」に育ててほしいと心から願っています。そのためには、子どもと向き合う大人の基本姿勢が大事で、肯定的に子どもと向き合う考え方を「ほめる」という言葉に込め、「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に掲げています。子どもを認め、応援する、リスペクトする姿勢です。私たち大人がタッグを組んで、子どもの豊かな成長を応援していきましょう。

佐賀県教育委員会

教育長 甲斐 直美

佐賀県教育委員会が掲げる基本的な施策は、次の5つです。本実施計画では、各施策に係る主な取組を示しています。

I 志と誇りを高める教育の推進	p.3~4
II 自分らしく学べる「さがん学び」の推進	p.5~6
III 健やかな佐賀の子どもを育む教育の推進	p.7~8
IV 誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進	p.9~10
V 教育DXの推進と学びを支える環境づくり	p.11~12

巻末に令和6年度の主な事業を掲載しています。(p.13~17)

重点プロジェクト

基本的な施策の各種取組に加え、特に力を入れるべき取組を『重点プロジェクト』に位置づけ、施策横断的に推進しています。令和6年度は、以下の6つの『重点プロジェクト』に取り組みます。

また、今年度は北部九州4県等で全国高等学校総合体育大会を開催します。佐賀で行う大会を「SAGAインターハイ」として、「する」「みる」「ささえる」場面で高校生が主役となって創意工夫をこらして盛り上げていけるよう、力を入れて取り組みます。

1. 教育DXプロジェクト

DXで変える

- 2. 唯一無二の誇り高い学校づくりプロジェクト
- 3. さがん学びプロジェクト
- 4. SAGA部活プロジェクト
- 5. さがすたいるスクールプロジェクト

+



人が支える

- 6. 「未来のさが」を担う教員の人材確保

I 志と誇りを高める教育の推進

目指す未来の姿

子どもが高い志と佐賀への誇りを持って、未来の佐賀や世界で活躍する姿を思い描きながら、失敗を恐れずに挑戦し続け、主体性と自信をもって生き生きとたくましく活動している。

取組方針・内容

① 子どもと向き合うときの基本姿勢として「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に、子どもの夢ややりたいことを応援することで、高みを目指して頑張る姿勢を後押しして、一人一人の子どものよさや可能性を最大限に伸ばし、志と誇り、優しさを持った「骨太な子ども」を育てていきます。

「認めて、ほめる」教育活動の推進

- ・ 学校・家庭・地域が一体となって、子どもの主体的な考えや挑戦を尊重して子どもと肯定的に向き合い、「認めて、ほめる」教育を行うことで、子どもの自己肯定感や自己有用感を高めます。

② 県内外からの志願者を増加させ、学校の活性化を図るとともに、社会に有為な人材の育成・輩出を目指す唯一無二の誇り高き学校づくりを推進します。

唯一無二の誇り高き学校づくりの推進

- ・ 県立高校と地域等の協働により、この学校でしか学ぶことができない教育活動を展開することで、生徒の資質・能力を育み、これからの新しい時代に有為な人材の育成・輩出を目指します。
- ・ 「高校進学説明会」の開催や「地域みらい留学」を通じた生徒の全国募集、県立高校の普通科改革の推進などの取組により、県内外からの志願者の増加を図ります。
- ・ 「地域みらい留学」を通じて全国から入学する生徒が、安心して学校生活を送ることができるよう、住まいなどの生活環境を充実させます。

③ 子どもが自己有用感を持って主体的に学び、活動することを促します。

コミュニティ・スクールを活用した特色ある学校づくり

- ・ コミュニティ・スクールの趣旨や目的の理解を深めるとともに、コミュニティ・スクール導入による教育的な効果を普及啓発していきます。

④ ふるさと佐賀への誇りや愛着を持ち、佐賀のよさを語るができる子どもを育てます。

さがを誇りに思う教育の推進

- ・ 郷土学習資料と映像資料を用いた学習活動を行い（中学・高校）、佐賀に関する講演会（高校）や郷土学習の成果を発表する場（小・中・高校生）など、体験活動を活用する場を設けます。

⑤ 子どもが社会的・職業的自立に向け、自らの生き方について考え、希望する進路を実現できる体制を整えます。

地域産業を担う人材の育成

- ・ 県立専門学科高校等での産業教育を通して、地域産業を担う人材を育成するため、県内事業所と学校との連絡調整や関係づくりを進めます。

社会情勢の変化に対応した人材の育成

- ・ 県内工業系高校で、デジタル化に対応した教育内容であるロボット技術について、教員の指導力向上及び生徒の技術習得に重点的に取り組み、新しいニーズに対応した産業人材の育成を目指します。

⑥ SAGAインターハイ(令和6年度全国高校総体)やSAGA2024に多様な形で関わる機会を創出し、佐賀への高い誇りと深い愛着を持った子どもを育てます。

SAGAインターハイ(令和6年度全国高校総体)開催への対応

- ・ 地元の高校生が広報や来県者へのおもてなし等について、企画・準備・運営に自ら創意工夫をもって取り組めるよう、県高等学校体育連盟と共に高校生活動を支援します。

SAGA2024との連携について

- ・ 地元の高校生に大会の周知を図るための学校訪問を知事部局の関係課と合同で実施するなど、県内の子どもが主体的にSAGA2024に参画できるよう、知事部局や学校との連携を図ります。

⑦ 様々な文化を理解し、歴史を見つめ直す機会となった「2019さが総文」を契機に、新しい文化を創造できるような、創造力を持った子どもを育てます。

文化芸術活動の活性化

- ・ 生徒の部活動の選択肢や全国レベルの文化芸術に触れる機会を確保します。

Ⅱ 自分らしく学べる「さがん学び」の推進

目指す未来の姿

子ども一人一人が個性を発揮し、多様な人々と協働しながら、創造力や構想力を持って主体的に学んでいる。

取組方針・内容

① 自分に自信を持ち、夢や目標を実現しようとする子どもを育てます。

「個に応じた最適な学び」と「多様な人々との協働学習」の充実

- 子ども一人一人に応じた学習活動・課題に取り組む機会を設定し、子ども自身の学習が最適となるよう授業の改善・充実を図ります。また、多様な人々と連携した探究的な学習や体験活動を行います。

少人数学級・チームティーチングの実施

- 少人数学級、チームティーチングの実施によりきめ細かな指導で児童一人一人の成長をサポートします。

小学校教科担任制の推進

- 小学校高学年において義務教育9年間を見据えた専門性の高い教科指導を行います。また、小学校外国語活動・外国語については、指導研究を行う学校の研究成果の普及を図ります。

ICT活用教育の推進

- 校種別授業公開、教科別研修等により、教職員のICT活用指導力の向上を図ることで、1人1台端末を活用した授業改善やデジタル技術を活用した教育活動を充実させます。また、各県立学校ごとにICT活用に関する取組目標を設定し、計画と実践、振り返りを経て、取組の改善・充実に努めます。

② 子どもの学力向上を図ります。

県調査、全国調査の分析と結果の活用促進

- 県調査及び全国調査を実施し、結果分析を行うことで、一年間の学力向上検証改善サイクルに取り組みます。

学力向上対策の充実

- 4つの取組（全職員による共通理解と共通実践、学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践、授業改善に向けた校内研修等の充実、家庭学習の充実に向けた指導の徹底）の強化に向けた支援を行います。

③ 授業改善に取り組み、教員の指導力向上を図ります。

「自分で考える学び」・「対話を通じた学び」・「思考を深める学び」の実現に向けた指導方法の改善・充実

- 授業改善やSDGsの理念を踏まえた研究を行う学校を指定し、研究成果を共有します。

授業改善の推進

- 研究校を指定し、子どもの基礎・基本の定着や思考力・判断力・表現力を高める授業改善、単元で身に付ける力を明確にした授業づくり等の実践研究を行い、その研究成果を県内学校へ普及します。

教員の指導力向上

- 学習指導要領の趣旨と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究・研修・学校支援の充実を図ります。

④ 家庭学習の時間確保、質の向上が課題であるため、子どもの学ぶ習慣を育てます。

学校と家庭・地域との連携

- ・ 家庭学習の手引きの活用により、家庭学習の充実、家庭・地域の教育力向上に取り組みます。

⑤ 学びの連続性を意識した効果的な指導方法を構築します。

校種間連携の推進による効果的指導法の構築

- ・ 幼保・小・中・高の校種間連携の取組を支援し、子どもの発達段階の違いを踏まえた学習指導や生活指導などの在り方の相互理解を促進します。小・中学校においては、義務教育9年間を見通した体系的で連続性のある指導が行われるよう、市町教育委員会及び各学校の取組を支援し、指導方法の工夫・改善に取り組みます。

佐賀大学及び西九州大学との連携による取組

- ・ 佐賀大学及び西九州大学と連携し、各プロジェクトによる具体的な取組を充実させます。

⑥ 中高生の海外での挑戦を応援します。また、多様な文化・価値観を理解し、主体的に行動できる子どもを育てるとともに、外国につながる子どもも安心して学べる環境を整えます。

海外からの留学生や学校交流の受入促進

- ・ 海外からの留学生の受入調整や海外の学校と県内の学校とのマッチングなど、海外との交流に関するコーディネートを行い、交流が円滑に行われるよう支援します。また、ホストファミリーのバンク登録者によるホームステイ受入れを推進します。

海外留学、海外研修に対する支援

- ・ 海外への興味・関心を喚起する事業や海外留学・海外研修に対する経済的支援を実施し、中・高校生の海外留学や海外研修を推進します。

体験的外国語活動の推進

- ・ 各学校への外国人講師の派遣や体験的外国語活動の推進などにより、授業で学んだ外国語（英語）を使いこなす機会を増やし、コミュニケーション力の向上を図ります。

英語教育の改善充実

- ・ 外部有識者検討会を立ち上げ、教員のさらなる資質向上及び子どもの外部検定試験の受験意欲向上に向けた取組の検証を行い、英語教育改善及び充実を図ります。

外国につながる子どもの実情に応じた指導方法の工夫改善及び支援の充実

- ・ 外国につながる子どもたちが円滑に学校生活を送り、学習に取り組めるように、日本語指導の工夫改善や支援体制の整備を進めていきます。

Ⅲ 健やかな佐賀の子どもを育む教育の推進

目指す未来の姿

子どもが、生涯にわたってたくましく生きるために、自らの健康や体力に関心を持ち、自ら進んで学び、実践する能力を身に付けている。また、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな感受性や人を想う優しさを身に付けている。

取組方針・内容

① 子どもの健康な体づくりを応援します。

体力向上へ向けた学校の取組の充実

- 各学校が体力向上のための目標を設定し、全国調査等の結果分析により学校の実態を把握することで、課題に応じた体力向上に取り組むことができるよう、実践例の共有等の支援を行います。

学校体育の充実

- 小中学校の体育授業に授業協力者を派遣し、児童・生徒が意欲的に取り組めるよう指導内容の充実や教員の資質向上を図ります。

運動部活動の推進

- 部活サポーター（部活動指導員）及び外部指導者の派遣、学校体育団体が行う強化練習会・強化合宿やアドバイザー・コーチ招へい等の取組を支援することで、運動部活動の推進を図ります。

② 自ら率先して望ましい食生活を形成できる子どもを育てます。

安全安心な学校給食の実施

- 給食時間を安全に、かつ、楽しく過ごせるように異物混入、食物アレルギー等に対するリスク管理や緊急対応が適切に行えるよう学校の取組を支援します。

食育の充実

- 各学校において、食育を推進するための運営組織が整備され、「食に関する指導の全体計画」に基づき、食育推進の意義や役割を踏まえた食育指導が実践されるよう、食育の充実に向けた取組を推進します。

③ 自分の健康について、自分で考え行動できる子どもを育てます。

学校保健の推進

- 子どもの基本的な生活習慣を培うとともに、健康管理などにより学校保健活動を推進します。また、体系的な研修を通して、養護教諭としての専門的知識の習得や実践的指導力の向上を図ります。

性に関する指導の推進

- 性に関する指導を学校保健計画に位置付け、学校教育全体を通し、子どもの心と体のバランスに配慮した性に関する指導の取組を推進します。

がん教育の推進

- 学校におけるがん教育を推進することで、子どもが、がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにします。

④ 子どものニーズに合った部活動に取り組めるように、「SAGA部活」(※)を推進します。

持続可能な部活動に向けた改革の推進

- ・ 県教育委員会が主体になり、県の関係部局、県内競技団体等と連携し、「チームSAGA部活」として指導者確保等の諸課題に取り組みます。

運動部活動の活性化

- ・ これまでの顧問の指導に加え、地域人材を活用することにより適切な指導を受けることができる環境整備を行い、子どもの「競技力をあげたい」「スポーツを楽しみたい」などのニーズに合った活動ができるようにします。

文化芸術活動の活性化

- ・ 志をもって部活動に取り組む生徒が増え、県総文祭を核とした佐賀の文化芸術活動の活性化につなげるため、生徒が様々な部活動に挑戦できる機会や全国レベルの文化芸術に触れる機会を確保します。

⑤ 社会の中で、様々な人々と互いを尊重しながら生きることや、他者と協働しながらよりよい社会の実現を図ることが求められていることから、豊かな感性や想像力、表現力を持った子どもを育てます。

道徳教育の推進

- ・ 道徳教育に係る研究校及び加配校における成果の周知等を通して、各学校における道徳教育推進教師を中心とした指導体制の強化と全体計画に基づく道徳教育の確実な実施を推進し、各学校での教育活動全体を通じた道徳教育の一層の充実を図ります。

読書活動の充実

- ・ 朝読書や資料を活用した学習などに利用できる図書の実質や、学校図書館を拠点とした読書活動の実質に向けた取組を推進します。

体験活動の推進

- ・ 発達段階に応じた地域間交流や世代間交流、ボランティア活動、自然体験活動、生活体験活動、集団宿泊活動、職場体験活動などの取組を推進します。

人権・同和教育の推進

- ・ 教育活動全体を通して、人権問題に関する正しい知識や確かな人権感覚を身に付けさせ、自他の人権を守ろうとする意識、意欲や態度の向上及び行動力を育成します。

主権者教育の推進

- ・ 小・中・高等学校において主権者教育を推進し、国家・社会の形成者として求められる子どもの資質・能力を育みます。また、高等学校においては、国の副教材の活用や選挙管理委員会等と連携し、指導の一層の充実を図ります。

※「SAGA部活」とは

佐賀県が市町と連携して取り組む部活動改革のことです。これからの部活動は、学校部活動以外にも地域との連携による様々な形が考えられます。子どもがスポーツや文化芸術等に親しむ機会を将来にわたって確保していくため、地域の状況に応じた様々なパターンの活動を応援していきます。

IV 誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進

目指す未来の姿

学びを必要とする誰もが、それぞれの個性や多様な価値観が尊重される場で、安心して学ぶことができている。また、子どもが自分の学校の在り方について議論できる場など、子どもが自由に選択できる環境が整っており、多様な経験を重ねている。

取組方針・内容

① 特別な支援が必要な子ども一人一人のニーズに応じた必要な支援を行います。

特別支援学校における特別支援教育の充実

- ・ 特別な支援が必要な子どもの増加による教室不足に対応するため、「鳥栖特別支援学校」の整備など教育環境の改善を図ります。また、様々な通学支援により、自力での通学が困難な子どもの通学を支援します。

幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- ・ 特別支援教育エリアリーダーの配置や特別支援学校のセンター的機能の充実などにより、幼稚園、小・中学校、高等学校における教員の専門性の向上や校内支援体制の整備を支援します。

インクルーシブ教育システムに対応した特別支援教育の充実

- ・ 市町教育委員会に対し、就学事務に係る情報提供などによりインクルーシブ教育システム構築を支援します。また、インクルーシブ教育システム構築に向けた研究及びユニバーサルデザインの視点を取り入れた研究の成果を生かした学校への支援を行います。

学校における医療的ケア実施体制の強化

- ・ 県教育委員会事務局に「医療的ケアアドバイザー」を配置し、特別支援学校における医療的ケア実施体制の構築・改善に向けた助言や、医療的ケア看護職員、教員、保護者、医師等の連携促進及び看護職員を対象とした研修を実施することで、医療的ケア実施体制の強化を図ります。

② 県民の『学びたい』というニーズに応えます。

県立夜間中学 彩志学舎中学校の開校

- ・ 誰もが義務教育の学び直しの機会が得られるよう、令和6年4月に開校した佐賀県立夜間中学「彩志学舎中学校」の教育環境の充実を図るとともに、広く情報発信を行っていきます。

定時制高校・通信制高校の充実へ向けた検討

- ・ 県民の多様なニーズに対応し、一人一人が目標に向かって前向きに挑戦することができるよう、通信制高校や定時制高校の在り方の検討を進めていきます。

③ 子どもの主体性を尊重し、子どもが自分らしく学ぶことができる環境づくりに取り組みます。

校則の見直し

- ・ 子どもが校則（学校のきまりなど）について主体的に議論できる場を設け、子ども、保護者、教職員の合意形成を図りながら、校則の不断の見直しを進めます。

制服を自由に選択できる環境づくり

- ・ 県内全ての子どもが自分らしく安心して学校生活を送ることができるよう、自由に選択できる制服の導入を促進し、一人一人の個性や多様性を尊重する意識の醸成を図ります。

- ④ 不登校については「魅力ある学校づくりと初期対応」「一人一人の状況に応じた支援」を、いじめについては「未然防止」「早期発見・早期対応」「再発防止」を徹底します。

不登校対策、教育相談体制の充実

- ・ 県内すべての公立学校の子どもが、スクールカウンセラーによるカウンセリングを受けることができる体制を整備するとともに、不登校の状況に応じて小・中学校での別室対応への支援を行います。また、県内すべての公立学校にスクールソーシャルワーカーを派遣し、学校だけでは解決困難な課題について、家庭や関係機関等と連携・協力する取組を支援します。

いじめ問題対策の充実

- ・ 専任の相談員による電話相談窓口を設置する等、いじめ問題に悩む子どもや保護者が相談しやすい環境を整備し、いじめ防止のための研修会の開催等により教員の意識・対応力向上に努めます。

生徒指導体制の充実

- ・ アンケート調査や面談などによる子ども理解に基づく指導・支援や、生徒指導上の諸課題の早期発見・早期対応はもとより、暴力行為などの発生時に組織的に対応できる体制の確立・強化を図る学校の取組を支援します。

- ⑤ 生涯にわたり自らの安全を主体的に確保することができるような子どもを育てます。また、子どもが安心して学べるよう、安心安全な学びの場を提供します。

安全教育の推進

- ・ 避難訓練を含む様々な安全教育を学校安全計画に位置付け、学校教育活動全体を通じ、緊急時を想定した危機回避能力を身に付ける学校安全に関する教育を推進します。また、学校安全計画の検証・改善に努めます。

学校施設の整備推進

- ・ 学校施設の特性に応じた長期保全計画（個別施設計画）に基づき計画的に施設の改築及び保全工事を実施することで、県立学校施設の老朽化対策を行います。また、市町立学校でも、老朽化対策などによる施設環境の改善が計画的に実施されるよう、国庫補助事業の活用に当たっては文書通知による情報提供だけでなく、ヒアリングや現地確認の機会も捉えて施設の現状を踏まえた助言をするなどの働きかけを行います。

※「さがすたいるスクール」について

佐賀県では、お年寄りや障がいのある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支え合い心地よく過ごせる、佐賀らしいやさしさのカタチ「さがすたいる」を広めています。

学校においても「さがすたいる」のコンセプトを取り入れ、誰もが、それぞれの個性や多様な価値観が尊重され、安心して学ぶことができる学校づくり「さがすたいるスクール」の取組を進めています。



V 教育DXの推進と学びを支える環境づくり

目指す未来の姿

教育DXによる大胆なデジタル化が浸透し、優秀な教職員が確保・育成されるとともに、安全・安心で質の高い学習環境が確保されるなど、子どもの学びを支える環境が整備されている。このことを通じて「誰もが いつでも どこでも 誰とでも 自分らしく学ぶことができる 子ども主体の学び」が実現し、創造力や構想力に富む、佐賀の未来を担う多様な人材が育っている。

取組方針・内容

① Society5.0時代の到来を見据え、多様で幅広い視点で課題解決に向かう力を持った子どもを育てます。

ICT活用教育の推進

- ・ 校種別授業公開、教科別研修等により、教職員のICT活用指導力の向上を図ることで、1人1台端末を活用した授業改善やデジタル技術を活用した教育活動を充実させます。

DI（デジタルイノベーション）人材の育成

- ・ 産学官連携によりDI SCHOOL「SEIRENKATA」を創設し、高校生が最先端デジタル技術や佐賀の地元学を学ぶことでDI人材育成を進め、将来佐賀で活躍する仕組みを構築します。

教育DXの推進

- ・ 1人1台端末や電子黒板などの機器類のICT活用教育の環境整備を行い、デジタル教材を活用することで授業や家庭学習における自分で考え伸びようとする姿勢を応援します。また、県立学校における学校内設置サーバーのクラウド化を推進し、佐賀県全体を学びのフィールドとして、どこでも学べる環境を実現します。

市町におけるGIGAスクール構想の支援

- ・ 全国に先駆けてICT活用教育に取り組んできた県の知見を活かして、市町におけるGIGAスクール構想を積極的に支援し、ICT活用教育総合サイト「Eコネクト」や佐賀県ICT活用教育推進協議会にて端末活用好事例等の情報交換や端末更新を推進することで、全県規模でICT活用教育を推進します。

情報セキュリティ対策の強化

- ・ 学校教育ネットワークに対する不正アクセス事案を受け設置した、佐賀県学校教育ネットワークセキュリティ対策検討委員会の提言を踏まえ、実施計画に基づき情報セキュリティ対策に取り組みます。

② 働き方改革や教職員が生き活きと活躍できる職場づくりを推進します。

教職員の多忙化の軽減

- ・ 業務のシステム化やスリム化、優良事例の共有などの取組を継続し、「学校現場の業務改善計画」を実践します。また、教員業務支援員をはじめとする各種支援スタッフの配置や教育行政職員による校務運営への参画など、子どもの学びを支える「チーム学校」の体制づくりを一層進めることで、課題への対応や教員の多忙化の軽減に向けて取り組みます。

教職員の心身の健康管理の充実

- ・ 心身の健康に関する各種研修や各種講習を通して、自らの健康への意識啓発と、健康診断・ストレスチェック結果を踏まえた生活習慣の改善やストレスへの対処などのセルフケア能力の向上を促します。また、労働安全衛生管理体制の整備・充実を図り、相談や情報交換が気軽に行える職場づくりを支援するなど、教職員が健康で生き活きと活躍できる環境を整えていきます。

③ 学校における人的教育環境を充実させます。

教員採用試験の選考方法・内容等の改善・充実

- ・ 教員採用試験の改善・充実により、教員に必要な資質や能力を持つ多様な人材を幅広く求め、教育現場の課題に適切に対応できる教員の確保を図ります。

教職の魅力の発信

- ・ 教員採用試験の説明会や教員を目指す高校生向けのプログラムなどの場で、教職の魅力を発信します。また、「さが」の魅力、「先生」の魅力を発信するWebサイトを効果的に運用し、受験者確保に努めます。

教員の養成・育成

- ・ 県内大学と連携し、養成課程の評価・改善に取り組み、教育現場の現実的な課題を踏まえた養成課程が実現されるよう努めます。その他、県の教員育成指標及び教員研修計画に基づく教職員のキャリアステージに応じた研修、民間企業等への派遣研修及び体験研修等を通して、資質向上を図ります。また、県内の教育現場において、様々な教育活動に大学生が携わる「学校支援活動」等を推進します。

教職員の服務規律の徹底

- ・ 管理職からの指導や既存の研修を通じて職責の重要性を自覚させることで、服務規律の保持に努めます。また、不祥事等の発生防止に向け、教職員一人一人の意識改革へ向けた働きかけや各種研修の内容の充実を図ります。万一の発生時には、厳格に対応します。

④ 学校の活性化や人材の育成及び意欲や専門性に富んだ人材の活用を図ります。

教職員人事評価制度の活用

- ・ 「教職員人事評価制度」においては、教職員に求められる資質・能力、学習指導、生徒指導、学校経営などの力を整理し、業績と能力の両面からの評価及び評価者からのフィードバックを通して、職務遂行能力の向上を促します。また、適正な評価が行われるように、評価者を対象とした研修を実施します。指導不適切教員等に対しては、研修の一層の充実を図るとともに、人事上の措置についても適切に対処します。

意欲や専門性に富んだ人材の活用

- ・ 各学校の特色ある教育活動の実現・推進を人事配置面から支援し、個々の教員の熱意や創意工夫を教育課題の解決に役立てます。また、意欲や創造性を持った教員や、一定の専門性を備えた教員などの情報を集約し、これらの教員を核とした地域や学校での課題解決力の向上を図ります。

⑤ 子どもが安心して学べるよう、安心安全な学びの場を提供します。

学校施設の整備推進

- ・ 学校施設の特性に応じた長期保全計画（個別施設計画）に基づき計画的に施設の改築及び保全工事を実施することで、県立学校施設の老朽化対策を行います。また、市町立学校でも、老朽化対策などによる施設環境の改善が計画的に実施されるよう、国庫補助事業の活用に当たっては文書通知による情報提供だけでなく、ヒアリングや現地確認の機会も捉えて施設の現状を踏まえた助言をするなどの働きかけを行います。

学校の危機管理体制の確立・強化

- ・ 「教育現場における安全管理の手引き」や危機管理マニュアルを絶えず検証し、見直しを行います。

⑥ 子どもの「学校で学びたい」という姿勢を応援します。

修学支援の充実

- ・ 県立高校に在学する生徒に対し就学支援金を支給、高校生等がいる低所得世帯の保護者等に対し奨学給付金を支給することで、県立高校における授業料等の経済的負担の軽減を図ります。また、経済的理由により修学が困難な高校生に対し、要件を満たす希望者全員に育英資金を貸与します。

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
I 志と誇りを高める教育の推進			
1 SAGA唯一無二の学校魅力 化実践事業費	唯一無二の誇り高き学校として県立高校の魅力を高め、県内外からの志願者を増加させるとともに、地域社会に貢献できる有為な人材の輩出を目指す。 ・SAGAコラボレーション・スクール指定校（9校） 地域、企業、大学等とコラボレートした学校運営組織による学校の魅力化 ・SAGAスマート・ラーニング指定校（8校） 地域、企業、大学等と連携した新しい時代の教育内容実践による学校の魅力化 ・学校魅力化コーディネーターの配置（5校） コーディネーターの配置により学校と地域の連携を促進 等	43,382	教育振興課
2 SAGAハイスクールプロ モーション事業費	県内高校の特色や魅力について積極的かつ効果的に情報発信することにより、県内外からの進学を促進し、唯一無二の誇り高き学校づくりを推進する。 ・高校進学説明会、県外向けRRの充実 ・「地域みらい留学」への参画（有田工業高校、唐津青翔高校） ・有田町が行う全国募集で入学した生徒への生活支援に対する補助 ・ハウスマスターの配置 等	22,546	教育振興課
3 SAGAハイスクールプロ モーション事業費 離島の生徒の高校進学 のための生活環境整備事業 費	離島の生徒を対象とした住まいなどの生活環境を整備・充実させることで、県内高校への進学を促進する。 ・ハウスマスターの配置 ・住まいの管理	2,021	教育振興課
4 県立高校普通科改革推進 事業費	県立高校普通科において、学科等の見直しを推進することにより、高校の特色化や魅力化の促進を図るとともに、社会のニーズや生徒の興味・関心等を踏まえた教育の実現を図る。 ・県立高校普通科の学科、コースやカリキュラムの見直し ・教職員研修の実施 ・学科、カリキュラム等の見直しに係る情報発信	7,864	教育振興課
5 唐津青翔高校TSUNAGARU プロジェクト事業費	多様な生徒が唐津青翔高校に入学し、「未来」・「世界」・「地域」とつながりながら学び合うことにより、骨太でたくましい人材を育成するとともに、県外からの入学者増により唐津青翔高校の活性化を図る。 ・特別教室棟の改修工事等に係る設計 ・交流拠点整備に係る事前調査 等	11,480	教育総務課 教育振興課
6 クロストレーニングモデル 事業費	令和6年度に「スポーツ科」が新設される佐賀東高等学校において、クロストレーニングを導入することにより、競技力の向上を図るとともに、スポーツ科でトレーニング結果の効果検証を行うことで、生徒が様々な視点を持ち、スポーツへの学びを深めていくことを目指す。	3,940	保健体育課
7 県立高校6次化実践プロ グラム事業費	遠隔・オンライン教育を活用した新しい教育方法により、高校や学科の専門性を生かした文理融合型の教科等横断的な学びを実践するカリキュラム開発や、大学、研究機関等の関係機関との連携体制の構築を図り、新しい時代の高等学校改革の姿を創造する。 ・デジタル技術（遠隔・オンライン・メタバース）を活用した新しい教育方法の導入 ・学校の特色や地域性を生かした創造力を育む文理融合型の学びの実践 ・専門的知見、先端技術を有する人材、地域を支える人材の積極的な活用	3,600	教育DX推進グ ループ
8 キャリア教育支援事業費	生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促す。 ・各学校におけるキャリア教育に係る活動 ・学年別、志望校別合同学習会、学科ごとの学習会 ・科学の甲子園などを通じた科学的思考力の育成 等	16,494	学校教育課
9 大学受験力及び学力向上 支援事業費	令和4年度から年次進行で段階的に適用されている新学習指導要領に対応し、各学校が実施する教員の指導力の向上や学校の組織的指導体制の充実を図るための取組等を支援する。 ・教員研修支援 ・スーパーティーチャー等による若手教員の指導力向上研修 ・教育課程研究支援	3,441	学校教育課
10 未来SAGA産業人材育成プ ロジェクト推進費	県立専門高校での産業教育を通して、地域産業を担う人材を育成する。 ・県内就職を支援する支援員の県立専門学科高校等への配置（23人） ・進路セミナーの開催、県内事業所の見学 ・長期インターンシップの実施 等	87,828	学校教育課
11 SAGAマイスターハイス クールプロジェクト事業 費	専門系高校で、教員の指導力向上及び生徒の技術習得に重点的に取り組み、新しいニーズに対応した産業人材の育成を図る。 ・全国産業教育フェア開催に向けた競技力の向上事業 ・全国産業教育フェア（ロボット競技全国大会等）の視察 ・専門員会の開催	12,256	学校教育課

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
12 さがを誇りに思う教育推進事業費	佐賀県のよさを知り、佐賀県の歴史・文化・自然などに対し誇りと自信を持つ生徒を育む。 ・郷土学習資料『佐賀語り』『佐賀巡り』の配布 ・ふるさと学習コンクールの実施 ・県立高校における講演会の開催	4,381	学校教育課
13 さが絵文の「志」継承事業費	「2019さが絵文」を契機に活性化した文化部活動のレベルアップを図り、佐賀の文化芸術活動の発展を目指す。 ・文化部活動活性化のための必要な経費の補助 ・全国高等学校総合文化祭等への出場経費の補助	6,543	学校教育課
14 2024年度全国高校総体北部九州大会開催事業費	令和6年度（2024年度）に北部九州4県等で開催予定の全国高等学校総合体育大会（北部九州総体）を通じて、佐賀への高い誇りと愛着を持った人材の育成を図る。 ・全国高校総体の開催準備及び運営 ・高校生活動の推進 等	421,642	全国高校総体2024推進チーム
II 自分らしく学べる「さがん学び」の推進			
15 全国学力・学習状況調査を活用した学力向上対策事業費	全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査を活用した検証改善サイクルを徹底し、調査結果の検証等に基づいた学力向上対策の改善・充実を図る。 ・小中連携による学力向上推進地域指定事業 ・検証改善サイクル確立による学力向上対策の推進 ・調査結果の分析 等	4,678	学校教育課
16 学びのSAGAアクティブ推進事業費	佐賀県小・中学校学習状況調査のあり方を見直し、教員による学力向上の取組の充実や児童生徒が自分らしく主体的に学べる環境を提供することで学習上の課題への対応を図る。 調査問題に係る業務（作成・採点・入力・分析等）の業者委託により ・児童生徒の学習状況に係る詳細なデータの提供 ・個々に応じたフォロープリントの提供	18,011	学校教育課
17 家庭・地域の教育力向上推進事業費	子どもの学習習慣確立に向け、学校現場と家庭・地域が連携した取組の一層の充実を図り、県全体で学力向上に向けた機運の醸成を図る。 ・学力向上フォーラムの開催、家庭学習リーフレットの更新、PTA関連の研修会への講師派遣 等	1,278	学校教育課
18 放課後等補充学習支援事業費	授業による指導だけでは学習内容の定着が図れていない生徒のため、放課後等に補充学習を実施する市町への支援を行う。 ・外部人材を活用した放課後や長期休業中の補充学習の実施に対する支援（市町立中学校63校を予定）	13,230	学校教育課
19 グローバル社会で生きぬくSAGA人材づくり事業費	グローバル化が進む中、国際的な視野を持ち、外国語によるコミュニケーション能力や多様な人々との共生を可能とする資質・能力を備えたグローバル人材を育成する。 ・留学生受入促進 ・海外留学や海外研修への支援 ・体験的外国語活動の推進 等	61,456	教育振興課
20 帰国・外国人児童生徒教育の推進支援事業費	帰国・外国人児童生徒等が日本語で学校生活を営み、学習に取り組めるよう、当該児童生徒等の実情に応じた指導方法の工夫改善及び支援体制について、研究を行い、成果の普及を図る。 ・指導・支援方法の研究及び市町への補助 ・連絡協議会の開催 ・研修会の開催 等	8,735	教育振興課
21 小学校第6学年における少人数学級の実施	令和3年3月の義務標準法の改正を踏まえ、国は、令和7年度までに小学校35人学級を計画的に整備する。令和6年度は、第5学年の学級編制の標準を国が35人に引き下げるため、小学6年生における少人数学級を国に先駆けて実施し、よりきめ細かな指導のための環境整備を行う。	177,093	教職員課
III 健やかな佐賀のこどもを育む教育の推進			
22 SAGA部活推進事業費	学校と地域の連携を深めた新たな部活動のスタイル「SAGA部活」の体制を整備することにより、生徒及び指導者がより活躍できる場を確保し、スポーツ及び文化芸術の振興を図る。 ・部活サポーター（部活動指導員）の派遣 ・SAGA部活指導者発掘・支援 ・SAGA部活スペシャルサポーターの派遣 ・地域スポーツクラブ活動体制整備 等	25,406	保健体育課

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
23 運動部活動外部指導者派遣事業費	専門的な知識・技術を有する運動部活動外部指導者を県内の高等学校に派遣し、運動部活動の充実を図る。	1,564	保健体育課
24 部活動指導員活用事業費	公立中学校に部活動指導員を配置し、効果的に活用することにより、部活動に従事する教員の負担軽減を図るとともに、生徒のニーズに応じた技術サポートを行う。	23,583	保健体育課
25 子どもの体力向上推進事業費	子どもの体力向上を図るため、各種体力調査の結果をもとに各学校において改善に役立つ具体的方策を提案し支援する。 ・スポーツチャレンジの推進 ・体力向上優良校等の表彰 等	1,420	保健体育課
26 学校体育スポーツ推進事業費	小・中学校の体育学習に対し、専門的な技術を有する外部指導者等の積極的な活用を支援する。 ・学校体育指導者講習会の開催 ・研究実践校等における研究 等	1,680	保健体育課
27 人権・同和教育活動費補助	市町が行う人権・同和教育の早期解決を目指した人権・同和教育の諸活動及び人権・同和教育集会所の運営費について補助を行い、人権・同和教育解決に向けた教育の推進を図る。	27,829	人権・同和教育室
IV 誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進			
28 特別支援学校整備事業費（鳥栖特別支援学校）（継続費）	障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育、地域のセンター的機能など鳥栖・基山地区の特別支援教育の更なる充実を図るため、九千部学園を有効活用し、小中高等部生を受け入れる新設校を整備する。鳥栖田代分校の全部及び中原特別支援学校本校の一部を集約する。（障害種別：知的障害 就学区域：鳥栖市、基山町） 【R6年度】 ・既存施設改修、小中学部棟増築 等	748,521	教育総務課 特別支援教育室
29 特別支援学校整備事業費（金立特別支援学校、大和特別支援学校）	児童生徒数が増加している特別支援学校において、教育環境の改善を図るため、敷地の安全対策及び教室不足改善のための施設整備を行う。 【R6年度】 ・金立特別支援学校：既存施設改修、旧寄宿舎解体 等 ・大和特別支援学校：仮校舎設置 等	247,413	教育総務課 特別支援教育室
30 県立特別支援学校におけるスクールバス運行事業費	自力での通学が困難な県立特別支援学校の児童生徒等の通学を支援するとともに、保護者等の通学に係る負担軽減を図るため、スクールバスを運行する。 ・スクールバス運行に係る委託経費（6コース）	88,950	特別支援教育室
31 特別支援教育推進事業費	障害のある児童生徒等の自立と社会参加を一層推進していくために、特別支援学校、幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の推進を図る。 ・職業自立推進（企業等における就業体験の実施、就労支援コーディネーターの配置） ・学校生活支援（巡回相談員の派遣、専門家チームの派遣） 等	22,140	特別支援教育室
32 特別支援学校における医療的ケア支援事業費	教育委員会に医療的ケアアドバイザーを配置することで、特別支援学校内における医療的ケアの支援体制を強化し、児童生徒の学習機会の安定を図る。	10,428	特別支援教育室
33 不登校対策総合推進事業費	不登校児童生徒の社会的自立や学校復帰に向けて、個々の状況に応じた段階的支援の充実を図る。 ・別室に常駐する学校生活支援員を配置する市町への補助 ・スクールソーシャルワーカーの派遣 ・不登校児童生徒へのカウンセリング等のアウトリーチ型支援を行う支援員の派遣 等	143,397	生徒支援室

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
34 スクールカウンセラー等 配置事業費	学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、スクールカウンセラーを配置する。 また、県立高校に在籍する障害のある生徒の学校生活に必要な活動を支援するため、特別支援教育支援員等を配置する。	129,024	生徒支援室
35 いじめ対策等外部人材活用 事業費	いじめ問題等、生徒指導上の諸課題の早期解決に向けた取組強化のため、専門的見地から教職員への助言や児童生徒への面談を行うなど、学校内外で生徒指導の支援ができる人材「生徒指導支援員」を配置する。	17,844	生徒支援室
36 スクールロイヤー活用事 業費	専門知識を有する弁護士（スクールロイヤー）から指導・助言を受けることで、教職員の負担軽減と安定した学校運営を図り、ひいては生徒の最善の利益を守る。 ・学校教育に係る案件に対する法的な助言 ・生徒向けの出前講座 ・いじめ防止等に係る教職員向け研修	811	生徒支援室
V 教育DXの推進と学びを支える環境づくり			
37 SAGAハイスクールDI人材 育成事業費	地元企業・大学・高等専門学校が連携し、高校生に最先端のデジタル技術を学べる場を提供することにより、デジタル技術を活用した新たな価値を創造する人材の育成を図る。 ・「SAGA DI Lab」設置 ・DI人材プログラムの開発	50,000	教育DX推進グループ
38 次期教育情報システム整備 事業費	令和8年度末で利用期限となる教育情報システムの更新を行い、子どもの主体的な学びと教職員の働き方改革を実現する教育環境を整備する。 ・教育情報システム等の更新に係る基本設計	51,319	教育DX推進グループ
39 SAGA教育DXスタートアップ 事業費	教育DXの実現に向けた試行・検証事業として、指定校を定めて、学習活動と校務事務のデジタル化を進める。 ・学習データのクラウド化 ・デジタル採点活用システムの導入 ・テレワークシステムの検証 ・実証事業の展開	18,257	教育DX推進グループ
40 オンライン教育環境整備 事業費	オンラインによる授業や面談など、教育活動をオンラインで実施するための環境を整備する。 ・授業等をオンラインで配信するための支援員の配置 ・オンライン配信を行うための著作権処理補償金 ・自宅に通信環境がない児童生徒及び職員にUSB接続型携帯端末を貸与	17,073	教育DX推進グループ
41 教育活動オンライン交流・ 情報発信事業費	オンラインを活用した学校行事等の映像配信、県外・海外等との交流を通じた教育活動を継続し、県立学校の情報発信とグローバル化に対応した教育活動の充実を図る。 ・映像配信用アカウントの保守・運用（YouTube） ・県外・海外との交流及びオンライン研修用アカウントの保守・運用（Zoomアカウント）	2,620	教育DX推進グループ
42 小・中・高を通じた英語 教育強化事業費	小・中・高を通じて使用可能な英語学習デジタル教材で、児童生徒の英語力の測定及び個別最適な学びを可能とする。さらに児童・生徒の英語能力を向上させるための研究を行う。 ・デジタル教材サイトの運用保守 ・デジタル教材改修費 ・指導方法研究	13,716	教育DX推進グループ
43 GIGAスクール構想支援事 業費	県内20市町におけるGIGAスクール構想の本格実施を受け、各市町立学校におけるICT活用教育の推進を支援する。 ・指定校での研究（研究指定校5校） ・モデル授業公開、研修会の実施 ・訪問支援	1,470	教育DX推進グループ
44 Eコネクト事業費事業	GIGAスクール構想でICT活用が進められている今、ICT活用教育のサイト「プロジェクトEコネクト」を開設し、教員のニーズに応じたきめ細やかな情報を提供したり、情報交換の場を設け、教員の資質向上を図る。 ・ICT活用教育総合サイト「Eコネクト」の運用保守 ・動画作成	4,402	教育DX推進グループ

【巻末資料】各施策の主な事業（令和6年度）

施策名・主な事業名	事業内容	R6年度予算額 (千円)	担当課・室名
45	学習用PC整備関連事業費 県立高校の生徒用学習用PCの整備、必要なライセンス等の調達、ヘルプデスク業務委託を通じた学校におけるICT活用教育支援等を実施する。 ・県立高校学習用PCリース及び修繕、マイクロソフトライセンスに係る経費 ・特別支援学校用PCリース ・コールセンター及び現地員による障害受付等への対応のためのヘルプデスク業務委託経費	341,302	教育DX推進グループ
46	ICT活用教育関連整備事業費 教育の情報化（ICT活用教育）の推進により、児童生徒一人ひとりに応じた指導の充実と教育の質の向上を図る。 ・県立学校（中学校、高等学校、特別支援学校）の電子黒板（液晶型）リース ・県立中学校、県立高校指導者用、予備機等のPCリース、及び機器修繕費等 ・特別支援学校学習用PC用管理ソフトライセンス費 ・県立学校における情報機器廃棄委託費 等	130,406	教育DX推進グループ
47	公立学校情報機器整備事業費 国のGIGAスクール構想の第2期を見据え、各市町で整備された1人1台端末の更新に必要な機器整備及び市町への補助を行い、より一層の活用を促進し、個別最適な学びを実現する取組の加速を図る。 ・市町の1人1台端末更新に係る費用に対する補助 ・入出力支援装置の整備	41,173	教育DX推進グループ
48	教育情報システム運用事業費 教育情報システムの運用を行い、情報セキュリティの強化、学校現場の利便性の向上、教職員の負担軽減を図る。 ・システム運用保守 等	396,686	教育DX推進グループ
49	高等学校DX加速化推進事業費 高校段階において、デジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化を図る。 ・県立高校に対して、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化するために必要な環境整備の経費を支援する。	69,882	学校教育課
50	教員業務支援員配置事業費補助 県内の市町立学校、県立中学校及び特別支援学校において、地域の人材を教員業務支援員（旧称スクール・サポート・スタッフ）として配置し、教員の専門性を必要としない業務に従事することで、教員の負担軽減を図る。 ・市町教育委員会への補助 ・県立中学校、特別支援学校への配置	45,628	教職員課
51	校舎等施設整備費（中学校、高校、特別支援） 県立中学校、県立高等学校及び特別支援学校施設の改修等を行い、環境改善を図る。 ・中学校：電話交換設備更新工事 ・高校：グラウンド整備 等 ・特別支援学校：市道側法面改修工事 等	542,291	教育総務課
52	長期保全整備事業費（中学校、高校、特別支援） 「佐賀県立学校施設長寿命化計画」（H31年3月策定）に基づき、学校施設の計画的な保全工事等を行い、施設の長寿命化を推進する。 ・建築：屋上防水工事、外壁改修工事 ・電気：消防設備更新工事、受変電設備改修 ・衛生：給排水管改修工事 等	1,174,596	教育総務課
53	奨学のための給付金事業費 高校生等が在る低所得世帯に対して、奨学給付金を給付することにより、保護者の負担軽減を図る。また、物価高騰により増加した学用品等に係る負担軽減のため、上乗せ給付を行う。	315,069	教育総務課
54	学校管理運営費（中学校）（高校）（令和5年度国補正） 県立中学校、県立高等学校におけるエネルギー価格高騰に伴う保護者負担電気料の増額分に対して支援を行うことで、保護者の負担軽減を図る。	15,388	教育総務課
55	学校給食費等支援事業費 物価高騰が続いている中、給食及び弁当の原材料費高騰分に対し支援することで、給食等の質や保護者負担等に転嫁することなく安全・安心な給食等の提供を行う。	25,473	保健体育課
56	育英資金貸付金（育英資金特別会計） 経済的理由により修学が困難な高校生に対し育英資金を貸与して、将来有為な人材を育成する。 ・貸与額：基礎額 18,000円、私立学校加算額 12,000円 他 ・新規貸付枠：397人	356,919	教育総務課

令和6年度佐賀県教育施策実施計画
編集・発行
佐賀県 教育委員会事務局 教育総務課

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号

TEL 0952-25-7398

Mail kyouiku-soumu@pref.saga.lg.jp

フェンシング
@SAGA アリーナ
7/23(火)~7/27(土)

バドミントン
@SAGA アリーナ/
SAGA プラザ/
吉野ヶ里町文化体育館ほか
7/30(火)~8/4(日)

少林寺拳法
@SAGA プラザ
7/26(金)~7/28(日)

レスリング
@嬉野市中央体育館
8/1(木)~8/4(日)

ボクシング
@SAGA アリーナ
8/7(水)~8/13(火)

水泳(競泳)
@SAGA アクア
8/17(土)~8/20(火)

SAGAインターハイ

令和6年度全国高等学校総合体育大会

開催期間 7.23.TUE. » 8.20.TUE.

